

かほく ワークシート



イラスト とよた かずひこ

いささか我田引水めくが、人々が新聞を読まなくなると、世の中が危うくなると思う。戦後70年を経てどんどん世の中が「危険」に傾斜するのは、新聞の購読率が減少しつつあることと無縁ではない、とおじさんは観(み)ている。

新聞考

中にぎつしり詰まっている。政治、経済、文化、事件、事故、災害などの記事をはじめ、イベント紹介やマンガ、連載小説、クイズ、「おじさん図鑑」他各種コラムなど、あらゆる分野の情報が満載だ。人々は毎日そんな情報に接し、読み(読む行為がまた大事だ)、取捨選択した上で、己の思考を深め、自身を更(さら)豊かにしていく。つまり、新聞を読むことで「教養」が必ずと培われていくのだ。

「教養」は「抑制」と同義だとおじさんは考える。教養人は「危険」への傾斜にくみすることなく、抑制的だ。新聞を読む人が増えれば教養が世の中の基となり、判断が伶俐(れいり)となるだろう。

「風が吹けばオケ屋がもうかる」論理とは大違い。新聞の衰退は世の中の衰退につながる一大事なのだ。

「抑制」…おさえとどめること
「くみする」…賛成して味方になること
「伶俐」…頭の働きが優れ、賢いこと

(2015年9月6日河北新報朝刊)

おじさん
図鑑

エッセイスト
飛鳥 圭介

①「おじさん」は、新聞を読むとどんなことが良いと考えているのですか。

②下の段で「おじさん」は『教養人は「危険」への傾斜にくみすることなく、抑制的だ』と言っていますが、どのようなことだと思いませんか。あなたの言葉で分かりやすく説明してください。

年 組 名前

(中学校・高校/朝の会前10~15分)